

リニア新幹線梶ヶ谷非常口及び資材搬入口新設工事説明会報告(2)

2017年3月5日(日)13:30~16:10 宮前区野川小学校体育館
説明会参加住民 約200人

この日説明会が開かれた野川小体育館はほぼ満員となりましたが、質問に対するJR東海の杓子定規な回答と、不安や疑問に対する改善策が示されないため途中で退席する人が多く、閉会間際には50人ほどに減ってしまいました。

地域の特性を熟知した住民の質問や意見に対し、それを無視するようなマニュアル通りの回答がほとんどで、住民の理解を得るため努力したというアリバイ作りに利用する主催者の魂胆が見えます。(写真は梶ヶ谷非常口予定地)

とくに尻手黒川線や周辺の生活道路での事故多発を恐れる住民や、また小学校の教諭が求めた通学路に交通指導員を配置してほしいとの要望についても「状況を見て検討したい」などと回答し、住民が心配する工事車両の安全走行の確保について自主的で積極的な対策を提示しませんでした。

この日も約20人の住民から質問や要望が出されました。以下質疑応答の概要です。

.....
A「昨日、リニア工事と県の貯留管工事との競合について補足する。双方のトンネルが交差することについてはかなり以前から調整の協議をしている。JR東海として工事の環境保全計画書を県に提出しており、矢上川の貯留管工事計画の詳細が決まった段階で密接な連携を行い調整して行く」

Q「立坑の底の作業室から送り込む圧縮空気はどの程度か」

A「6.5メガパスカル」

Q「モニタリングという環境保全対策で考えている大気質、騒音、振動の環境基準を示してほしい。年度ごとに測定値を公表するとなっているが毎月HPなどで公表できないのか」

A「モニタリングは自主的な取り組みである。地下水については工事ヤード内に観測井を設ける。地盤沈下はヤード内に固定点を設け日々観測する。土壌汚染については、受け入れ先の指定基準に沿って処理する。毎月1回は無理なので年1回にさせてほしい」

Q「周辺道路を歩いて児童・生徒が通学している。工事車両の路上駐車はやめてほしい」

A「コンクリ打設の際は月1~2回、一日700台の生コン車両が走行する。かなり多いと思う。生コン車の走行にあたっては周辺の交通状況を確認する。工事ヤード内にも30台分の駐車スペースを準備するので、周辺道路や尻手黒川線での路上駐車はしない。中央新幹線という標識を貼った車両が路駐なのを見かけたら通報していただきたい」

Q「尻手黒川線からロイヤルホームセンターに入る道路角にも交通指導員を配置してほしい」

A「歩行者が少ない所だが現状を把握したうえで検討したい。野川小や梶ヶ谷小前にも指導員を置いてほしいとの要望があるが、生コン車が多く走行する際は配置することを視野に入れて検討したい」

(工事車両の安全走行の確保については多くの住民から徹底した対策を求める意見、要望があった)

Q「非常口工事や走行車両数は同規模の工事から言って特別大きいとか多いとかではないのか」

A「中央環状線品川換気口工事など10例を示し、特別に大きな工事ではない。1日平均160台の工事車両も多いとは言えないが、貨物線による残土運搬を増やして工事車両の数を減らしていきたい」

Q「非常口工事が3年で終わったあとトンネル工事が7年間ある。そういうバックグラウンドを考えず、非常口工事のことだけを説明されても分からない。二子玉川の大型商業施設ライズの工事でも工事車両のために246等周辺道路が大混雑した。リニア工事はその比ではない」

A「160台という車両数は生コン車や工事関係者の通勤車両などを平均化した数字である。ダンプカーはそのうち80



台である。野川と馬絹の交差点の渋滞状況は把握しているが、工事中もモニタリングする」

（非常口工事についてだけ説明し、その後のトンネル工事の説明は非常口工事が終わってからというのがJR東海の腹積もりだ。あくまで一体のものであるという住民の指摘は正しい。あくまで10年連続一体の工事の捉え方）

Q「非常口から、供用時にどのくらいの音が発生するのか。またトンネル内の車両火災の際排煙の役割をするのか。磁界はどうなのか」

A「山梨実験線では地表への音は47dBであり、50dB以下なら人体には感じない。火災時には排煙の役割がある。実験線の公開測定で次回はICNIRPのガイドラインを大きく下回っている」

（車内の床上10cmではガイドラインに近い磁界が測定されているがJR東海から公開されていない）

Q「できる限り残土を貨物線で運ぶと言っているが、その量は」

A「1両にコンテナを3つ積みそれが9両。1列車あたりダンクカー27台分になる」

Q「鉄道輸送なら環境保全になると簡単に考えているようだが、貨物線の騒音・振動はリニアの比ではない。JR貨物と住民の間で紛争があった。貨物線なら正しいと言うのはとんでもない。運行ダイヤは」

A「運行ダイヤは一日一往復だ。朝6時に出発して夕方6時に戻る。土砂の積み込みは夕方6時以降に行い、早朝にすることはない」

（トンネル工事が始まり残土量が増えれば列車輸送は一日10往復になることをJR東海は明らかにしていない。早朝から深夜まで積み込み作業が行われる可能性が高い）

Q「工事説明書には家屋調査が抜けている」

A「既存の公共工事の事例では、工事ヤードの境界から30m以内にある住宅については家屋調査を行うことになるが、梶が谷非常口ではその範囲内に住宅がないので家屋調査はしない」

（前日は法で決まっているといひ、翌日はこれまでの事例からと変えている。自主的に井戸調査と同じ半径1km以内で実施するのが当然。3兆円も国から支援を受けるのだから）

Q「貨物線による残土輸送は処分先が決まらないのでアセスから除外された。残土を臨海部の埠頭に運び千葉県の内陸部の埋め立てに使うと決まったのなら、沿線や処分地のアセスをすべきだ」

A「アセスをやり直す考えはない。今後列車本数自体はそうは増えない。処分地についてはその場所に依じた環境保全措置を講じる」

Q「東百合ヶ丘非常口周辺の1町内会と工事確認書を交わしたというのが町内会の誰と結んだのか、内容は周辺にいる住民の総意なのか、内容は住民に知らされているのか」

A「自治会の方、JR東海、施工者の3社で結んだ。東百合ヶ丘非常口工事では2月に環境保全計画書を県と川崎市に提出し、HPでも公開している。これが文書としての正式な約束であり、自治会との確認書は公表できない」

Q「井戸調査半径1km以内に住んでいるがその案内がない。2万7千軒に配布したそうだが漏れているのか。非常口から圧縮空気を入れることで池の水が溢れたりしないのか。文献調査だけで大丈夫と予測し実際に行ったら誰が責任を取るのか」

A「連絡漏れかも知れないので後で住所を教えてください。空気漏れの話ですが、そうならないよう適切に管理する技術はある」

Q「矢上川の貯留管工事とリニア非常口工事が近接して行われるが、リニアの立坑工事が先行することになることで、貯留管工事が後回しになるのではないかと。貯留管トンネルは急傾斜している。リニアのトンネルありきだったのでは。双方の施工業者は同じゼネコンでありその方向で調整したのではないかと。説明会を共同ですべきではないかと」

A「業者については公募でやっている。共同説明会は難しい県と業者の間で正式な契約ができれば事業間調整の協議をする」



（以上:3/5まとめ天野）